

製品名: CALR マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM82376**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ELISA,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	48.1kDa

抗原情報

遺伝子名	CALR
別名	RO; CRT; SSA; cC1qR; HEL-S-99n
遺伝子 ID	811.0
SwissProt ID	P27797
免疫原	大腸菌で発現したヒト CALR (AA: 18-417) の精製された組み換え断片。

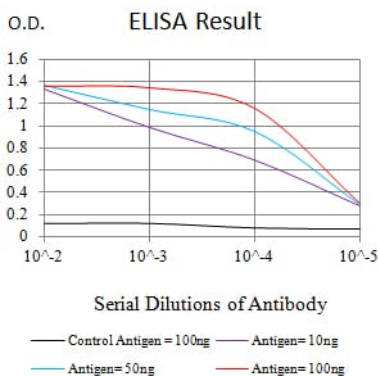
背景

カルレティキュリンは、小胞体腔内における主要な Ca(2+)結合（貯蔵）タンパク質として機能する多機能タンパク質です。また、核内にも存在することから、転写調節に関与している可能性が示唆されています。カルレティキュリンは、核内受容体スーパーファミ

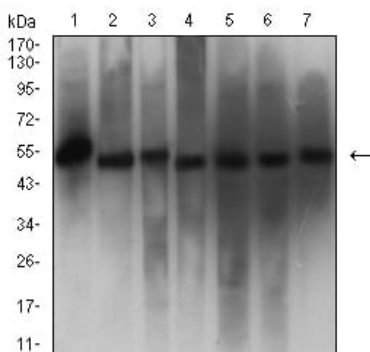
リーの DNA 結合ドメインのアミノ酸配列とほぼ同一の合成ペプチド KLGFFKR に結合します。カルレティキュリンは、全身性エリテマトーデスおよびシェーグレン症候群患者の特定の血清中の抗 Ro/SSA 抗体を含む抗体に結合します。種間で高度に保存されており、カルシウムと結合する可能性のある小胞体および筋小胞体にも存在します。カルレティキュリンのアミノ末端はグルコシルコリド受容体の DNA 結合ドメインと相互作用し、受容体が特異的なグルコシルコリド応答エレメントに結合するのを阻害します。カルレティキュリンは、アンドロゲン受容体とそのホルモン応答性 DNA エレメントとの結合を阻害し、生体内でのアンドロゲン受容体およびレチノイン酸受容体の転写活性、ならびにレチノイン酸誘導性神経分化を阻害することができる。したがって、カルレティキュリンは、核内ホルモン受容体による遺伝子転写調節の重要な調節因子として作用する可能性がある。全身性エリテマトーデスはカルレティキュリンに対する自己抗体価の上昇と関連しているが、カルレティキュリンは Ro/SS-A 抗原ではない。以前の論文ではカルレティキュリンが Ro/SS-A 抗原であるとされていたが、これは後に反証された。IgG クラスおよび IgM クラスの完全先天性心ブロックを有する乳児では、ヒトカルレティキュリンに対する自己抗体価の上昇が認められる。

研究分野

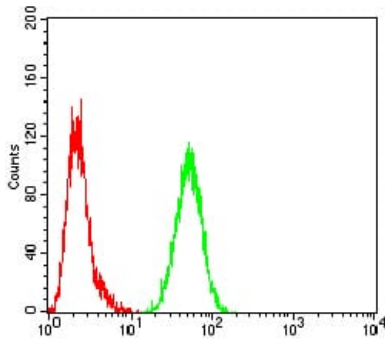
画像データ



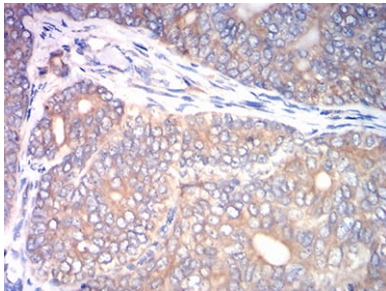
黒線: コントロール抗原 (100 ng) ; 紫線: 抗原 (10 ng) ; 青線: 抗原 (50 ng) ; 赤線: 抗原 (100 ng)



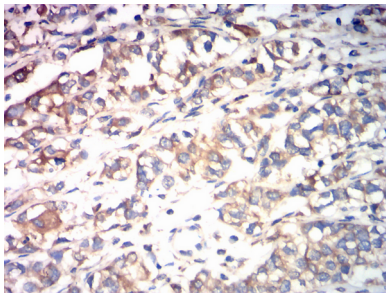
Hela (1) 、MCF-7 (2) 、NIH/3T3 (3) 、HepG2 (4) 、Jurkat (5) 、Y-79 (6) 、および C6 (7) 細胞溶解物に対する CALR マウス mAb を使用したウエスタンブロット分析。



CALR マウス mAb (緑) とネガティブコントロール (赤) を使用した Hela 細胞のフローサイトメトリー分析。



CALR マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト子宮頸癌組織の免疫組織化学分析。



CALR マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト膀胱癌組織の免疫組織化学分析。